

◆◆◆緊急地震速報の本運用開始に向けて

緊急地震速報とは、地震被害の軽減のため、震源に近い観測点で地震を検知し直ちに震源やマグニチュードを推定し、大きな揺れが迫っていることを知らせる情報です。

気象庁は、すでに平成18年8月から特定の分野での利用のための先行的な提供を開始しておりますが、広く一般への提供を本年9月頃開始する予定となっており、それに向けて「緊急地震速報利用の心得」として以下のようにまとめました。

～緊急地震速報利用の心得の概要～

「周囲の状況に応じて、あわてずに、まず身の安全を確保する」

<基本的な考え方>

地震で建物の倒壊が発生するような震源の近傍では、緊急地震速報の提供から主要動が到達する間の猶予時間は、あっても数秒以下であるため、緊急地震速報を利用して建物の外へ脱出することは極めて困難である。従って、緊急地震速報を受信した際の最善の行動は、「あわてずに、まず身の安全を確保する」ことである。

さまざまな場面における具体的な対応行動の指針は以下のとおりである。

<さまざまな場面における具体的な対応行動の指針の例>

【家庭】

- 頭を保護し、大きな家具からは離れ、丈夫な机の下などに隠れる
- あわてて外へ飛び出さない
- その場で火を消せる場合は火の始末、火元から離れている場合は無理して消火しない
- 扉を開けて避難路を確保

【不特定多数の者が出入りする施設】

- 基本的には施設の従業員等の指示に従う
- その場で、頭を保護し、揺れに備えて身構える
- あわてて出口・階段などに殺到しない
- 吊り下がっている照明などの下からは退避する

【屋外】

- ブロック塀の倒壊や自動販売機の転倒に注意し、これらのそばから離れる
- 壁、看板、割れたガラスの落下に備え、ビルのそばから離れる。丈夫なビルのそばであればビルの中に避難

【自動車運転中】

- 後続の車が情報を聞いていないおそれがあることを考慮し、あわててスピードを落とさない
- ハザードランプを点灯するなどして、まわりの車に注意を促したのち、緩やかにスピードを落とす
- 大きな揺れを感じたら、できるだけ安全な方法により道路状況を確認して安全な場所に停止

【鉄道・バスに乗車中】

- つり革、手すりなどにしっかりつかまる

【エレベーター利用中】

- 最寄りの階で停止させ、速やかにエレベーターから降りる

「緊急地震速報」を活かすために

「緊急地震速報」が運用されても、地震への備えができていなければ身の安全を守ることができない。「緊急地震速報」を活かすためには、以下のような点を、あらためて徹底することが不可欠である。

- 住宅・建造物の耐震化、家具の転倒防止
- 備品の落下防止やガラスなどの飛散防止
- 安全な場所の確認
- 防災訓練の実施